

平成29年度 学校評価シート 【高知県立日高養護】

1 目指す学校像

子どもたちの学ぶ楽しさや、生きる喜びを育てる教育を通じて一人一人の目標を達成する。	
① 子どもたちが楽しく学べる学校	② 保護者が安心して子どもを任せられる学校
③ 地域の人々が振り返ってくれる学校	④ 教職員が意気に感じて仕事ができる学校

2 本年度の教育目標

(1)児童生徒一人一人の能力・適性に合った教育活動を充実させる。(2)児童生徒の自立する力をつけ、社会参加に向けての適応力を高める。(3)家庭や地域、関係機関と連携し、安全で安心できる学校づくりを進める。
--

3 評価基準：A：設定した目標を十分達成できた。B：設定した目標に対し、ほぼ達成でき、次年度の課題が明確になった。C：設定した目標に対し、成果が不十分であり、課題が残った。D：設定した目標に対し、ほとんど達成できなかった。

項目	昨年度の課題	本年度の目標	目標達成のための手だて	自己評価	学校関係者評価	今後の課題		
児童生徒一人一人の能力、適性等に応じた教育活動の充実(知・徳・体)	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握に基づき個々の課題を明確にし、具体的な目標及び手立てを設定する。(キャリア発達段階表の活用) ・日々の授業に反映させ、評価改善を図る。 ・タブレット端末の活用について、様々な可能性を追求する。 ・活用方法を整理し、情報発信する。 ・活動の幅を広げ、より積極的に取り組む。 	(1) 個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく一人一人に応じた指導内容、指導方法の創意工夫を明確化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ツール(指導内容表、キャリア教育発達段階表、成長の記録)を活用した実態把握を行う。 ・実態把握に基づく、個々の目標及び指導内容の点検評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種ツールを実態把握に活用することができた。 ・実態把握が適切かどうか、実態把握に基づく、個々の目標及び指導内容が適切かどうかについては、引き続き評価改善を重ねる必要がある。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に即した形で指導できているか、しっかり評価する必要がある。 ・個別の指導計画を見る機会があるが、丁寧に書いていると思う。 ・より高みを目指して頑張してほしい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握、目標、手立て、授業内容についての評価改善。
		(2) 児童生徒の発達に応じた教材教具の提供による指導内容の充実とその評価を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の活用方法を整理し、学校内での共有化を図る。 ・ICT機器の活用事例をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の活用方法を整理し、学校内での共有化を図る。 ・活用事例の整理については、今年度はできていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を使ってみようかという、気持ちの芽生えを大切にしてほしい。 ・iPadの授業における活用の様子を見せてほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の様々な活用方法についての研究。 ・情報発信のための活用事例の整理。
		(3) 地域の資源を活用した社会体験学習や交流活動を積極的に実施し、よりよく生きる力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携して、村内の環境整備に取り組む。(村道、役場の花壇、デイサービスセンター日高等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスセンター日高、村の駅との交流活動、役場の花壇整備等を行うことにより、生徒の社会性の向上につながっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・村道の清掃は、6月の最終日曜日に行っているのですが、どのような形で連携できるかを考えたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日高村とのかかわりを広げる。
教員の専門性の向上(知・徳)	<ul style="list-style-type: none"> ・早期から計画的に取り組む、カリキュラムマネジメントの視点で教育課程全般の見直しを行う。 ・日高養護学校キャリア発達段階表に基づき子どもの課題を明確にし、授業内容に反映させる。 ・研究授業の学習指導案にはキャリア発達段階表を添付する。 ・来年度の校内研修は、高等部が研究授業を行う。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた授業内容で研究授業を行う。 ・校内研修会を地域に公開する。 	(1) カリキュラムマネジメントの視点で学校全体の構造や取組を評価するシステムを構築し、全教職員で共有化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・知的障害特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の視点で、日々の授業実践を見直す。 ・教育課程検討委員会で取組の評価を行い、次年度に向けての改善につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善に取り組んだ。 ・取組の評価は不十分である。 	C	継続してお願いします。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に向けた教育課程全般の見直し。
		(2) 児童生徒のキャリア発達を促す指導支援の充実とその評価を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日高養護学校キャリア発達段階表を活用した学習指導案を作成し、キャリア発達段階表を学習指導案に添付する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達段階表を活用した授業づくりを行い、学習指導案にも添付することが徹底されてきた。 	B	継続してお願いします。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を常に意識した取組の推進。
		(3) 各クラス、教科、学習グループで年間1回以上の公開授業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各学部で、研究テーマに基づいた取組を行う。 ・外部講師に助言をいただきながら研究する。 ・研究授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業の実施は、一部にとどまった。各学部の取組に温度差が見られる。 	C	継続してお願いします。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの教員の研究(公開)授業実施。 ・研究協議を通じた授業の改善。
		(4) 教職員全員参加と地域に公開した校内研修の実施による専門性の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに応じた校内研修会の計画・実施。 ・校内研修会の案内を村内各校に送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に向け、校内研修会を年8回(人権研修、教育課程研究集会を含む)行うことができ、外部講師を招聘した授業づくりに関する研修会については村内に案内を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修案内は届いているが、どの学校も多忙感があって行けないのではないか。 ・日高村の人権教育研究協議会に日高養護学校にも加わってもらって、一緒に研修ができないか考えていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の小中学校が参加しやすい、校内研修会の在り方。

<p>進路指導の充実 (知・徳)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達段階表を活用することにより、児童生徒の高等部卒業後を見通した指導を行う。 ・個々に合った支援体制づくりと関係機関との連携強化を行う。 ・より多くの保護者に参加してもらえるように、ニーズ調査をしっかりと行い、早めに計画を立て広報する。 	<p>(1) 小・中・高・寄宿舎の連携による、一貫した系統的、組織的な指導の実施及びキャリア発達段階表の点検評価を実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日高養護学校キャリア発達段階表を実態把握に活かす。 ・寄宿舎生を対象とした学舎懇談においてキャリア発達段階表を活用する。 ・学部研において児童生徒のキャリア発達の点検・評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア発達段階表を2017年版として見直し、授業づくり等に活用した。 ・他の場面での活用は不十分である。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・せつかく連携できる体制が整っているため、ぜひ強みにしてほしい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の自立と社会参加を目指した、長期的な視点での授業計画。
<p>家庭、地域との連携及び障害者スポーツの推進 (徳・体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して各種スポーツイベントに参加する。 ・スポーツ指導員によるスポーツ体験教室を、地域にも公開して実施する。 ・保護者や関係者への理解啓発を行い、休日における「総合型スポーツクラブ」の利用向上を図る。 ・居住地域交流の件数を増やすために、対象となる学校の理解啓発に努める。 ・様々な想定をして訓練を計画実施する。 ・福祉避難所運営計画を見直し、訓練の実施・評価・改善を行う。 	<p>(1) 運動、スポーツを通して、社会性や豊かな人間性を育み、共生社会の実現を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のスポーツイベントに積極的に参加を促す。 ・部活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひだか茂平マラソン等様々なスポーツイベントに参加した。 ・部活動として各スポーツ大会に参加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ひだか茂平マラソンにたくさん参加してもらってありがたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引率者が一部の教員に偏ることへの対応。
<p>特別支援教育のセンター的機能の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・よりいっそう地域のニーズに対応できるように、他の特別支援学校、特別支援教育課、教育事務所等と連携する。 ・教員の異動があっても質の高い地域支援業務ができるように、部の体制強化を図る。 	<p>(1) 地域の保・幼・小・中及び高等学校の教育相談、校内研修等への支援の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との打ち合わせを十分行い、教育相談や校内研修を充実させる。 ・様々な研修に積極的に参加し、専門性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの機能を発揮し、地域の多様なニーズに応えることができた。また、担当以外の人材を活用した対応も行った。相談件数の増加への対応が課題である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談では大変お世話になっている。気軽に行き来できるようになりたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・相談研修の増加への対応。 ・校内における人材育成と人材活用。 ・専門性の向上。 ・中央での検査実技講習の受講
		<p>(2) 専門性の向上による多様化への対応と支援体制の強化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動充実事業を活用し、専門性の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動充実事業を9件及び合理的配慮支援員派遣事業を2件活用したが、校内の活用にとどまった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 継続してお願いします。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校外への支援における外部専門家の活用。
		<p>(3) 専門分野における校内の教職員を活用した地域支援体制の構築を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談・心理検査実技等スキルアップ研修への参加。 ・教育相談部内で研修会を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談部内で検査実技に関する研修を行い専門性の向上を図った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 継続してお願いします。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・専門分野における校内の教職員を活用した「チーム日高」での地域支援体制の構築。